

ゴー！ 医見 vol.275 新聞屋さん、テレビ屋さん

今回の選挙、とにかくメディアの参政党たたきがひどかったですね。参政党が躍進したら「この世の終わり」という報道を選挙が終わっても執拗に繰り返しています。神谷宗幣氏という若くて力強いリーダーが国民と一緒に造った政党が躍進したのに、その民意を否定するような報道姿勢には苦言を呈する、というより糾弾したいと思います。

日本人ファーストは当たり前

参政党の今回の選挙のスローガンです。物価高等で多くの国民が大変な思いをしています。海外諸国や国際組織への援助を否定するものではないが、それよりも国民生活への支援を優先すべきだ、という趣旨で「日本人ファースト」と掲げているのに、「人間にファーストもセカンドもない」という、どこの誰が言い出したのか分からないような難癖を捻出して、「レイシスト」、「排外主義」と誹謗し続けています。自分たちが分断の種を巻いてせっせと育てているくせに、「参政党は分断を生んだから危険だ!」と執拗な攻撃を繰り返すのは、何故なのでしょう？

ところで、プロ野球の外国人枠というのはご存知でしょうか。一軍登録できる外国人は最大4人と決められているのです。日本人選手の活躍の場が奪われないように、という趣旨で作られた制度です。どちらも日本人ファーストだけど、プロ野球はお咎めなし、参政党は排外主義、おかしくないですか？

高齢女性は子どもが産めないのは紛れもない事実

神谷氏の街頭演説での「申し訳ないけど男性や高齢女性は子どもが産めない」という発言を「女性蔑視」、「女性は子供を産む機械ではない」と曲解して憎悪を煽り立てています。出産に適した年齢の女性が安心して子供を産んで育てられるような政策を行いたい、という趣旨の発言であり、言葉自体も考え方も極めて真っ当なものです。それなのに、ある団体が15人ほど集まってプラカードを掲げて抗議をしたら「各地で抗議デモ」と大騒ぎしていました。数千人規模の「財務省解体デモ」のことは報道せずに、たった15人の「デモもどき」を大々的に報道する、こういうのをダブルスタンダード、日本語では二枚舌、と言います。

公職選挙法違反

TBSの報道特集という番組は7月12日の放送で、神谷氏の演説の切り取り動画と、不法入国している外国人が不当な扱いを受けている、というニュースを組み合わせ「参政党が気の毒な外国人を排除している」という印象操作をし、最後に女性アナに「参院選での1票が身近な外国人の生活を脅かすものになるかもしれない」などと語らせました。事実と異なる印象操作をした上に、選挙期間中に特定政党への投票をためらわせる報道をした、というのは誰が何といおうと公職選挙法違反です。

演説妨害は犯罪行為

ある集団が参政党の街頭演説を執拗に妨害していたのは周知の事実です。まるでストーカーのように、全ての演説に同行し、汚らしい言葉を並べたプラカードを持って、中には日の丸に×を付けたものを掲げている者もいました。拡声器を使って大声を出して演説を聴きとりにくくする行為も日常茶飯事です。参政党批判の急先鋒である、神奈川新聞の石橋学という記者がこの妨害行為に加担してたことも明らかになっていますが、メディアはこれらのことは一切触れません。こんな組織には報道機関を名乗る資格はありません。お金儲けだけが目当ての「新聞屋さん、テレビ屋さん」です。

一部の人は参政党のことを「戦前回帰だ」と言って批判していますが、メディアが自分たちにとって都合の悪い者を力づくで押さえつける行為こそ「戦前回帰」だと思います。

つばさクリニック院長 石川 亨